

新 刊 紹 介

ハルサニ原著 木暮義雄譯

“星を見つめる人” 上下二冊. 東京 那珂書店. 價 2.00 及び 2.40

譯者から贈られて、この夏は、暇に此の二冊を繰り返し讀んだ。ホンガリ國の文士 Zsolt de Harsanyi が書いたガリレオの傳記小説である。小説とは言へ、史實に頭る忠實な書き方をしてゐて、殆んど之れを正しい傳記と考へても差支へない。實際、今から 300 年も前の時代だから、史料だけからは完全な傳記は書けるものではない。従つて、この書物以上のものが、今後もガリレオ傳としては現はれないだらう。ガリレオの死後 300 年の紀念出版物として、天文物理學徒は是非一度は通讀すべきものであらう。

原著はガリレオの史實をよほど嚴密に調査研究したものらしい。人も場所も年時も殆んど正確で、それに、文士らしい想像力の働らきも偉大である。ガリレオは言ふまでもなく、其の父母も、兄弟も、子供も、師友も、僧侶や、大小の政治家たちも、皆、その性格が遺憾なく描かれてゐる。ガリレオの激しい性質と、アリストテレスへの一徹な反抗、信仰生活、法王權への愛憎、その他、物理學上の幾多の獨創的發意、天文學上の種々な發見等々、實に限ぎましく、劇的な場面が夥しい。又、どこまでも人間としてガリレオを取り扱つたがために、今迄單に一ケの天才として、又、特に新教徒の立場から法王を悪玉にした史傳などを讀まされてゐた人々は、この書によつて、ガリレオの性格を知ると共に、法王一派を激せしめたいきさつも容易に了解し得る。ガリレオ式の望遠鏡の發明の事情、木星衛星の發見の眞相、1604年の新星の出現に伴ふ論議、ピサの斜塔から試みた落體の實驗等々、單なる記録としても、天文家には興味は深い。——讀者は天界誌上の拙文“ガリレオ傳”を參考として之れを讀まれんことをすゝめる。但し、多少の誤植や誤譯がある。その中、見逃し得ないものを、下表に示した。譯文は頗る達者であるが、理學の素養が幾らか不足で、其の點少々讀みづらい。(山本)

正 誤 表		誤	正	
上巻	第129頁	第2行	天體	天球儀
	159	14	考人	老人
	160	6	倉事	食事
	190	14	砂粒	グレイン (物の單位)
	223	12	選ばれて部屋	選ばれた部屋
	305	2	ピコリミニー	ピコロミニー (以下同様)
	354	4	ティチョー	テュコ (以下同様)
	371	4	マイルール	マイル

第384頁	第10行	新しい星	新星（以下同様）
386	16	天文學の緯度	天文緯度（又は天文學的緯度）
387	15	第四等星	四等星
397	11	ブルーノ	ブルーノ
405	3	要素	元素
〃	11	慧星	彗星
425	1	ピコロミニー	ピコロミニー
433	8	に總督，グリ	に，總督グリ
435	11	目です	目にです
446	13	てきた着	てきた。着
498	6	稀なる經	稀なる寶
507	12	昂	昂
508	3	千六百年	千六百年
〃	3	空	天
〃	4	一つの星	最後の一つの星
512	8	「星の使者」	「星界の使者」（以下同様）
514	3	「メヂチ家の星」	「メヂチ星」
下巻	第5頁	第5行	ピサに
27	9	フルレンス	フロレンス
32	3	軌道	圓像
38	13	廻轉	自轉
46	1	發見	發見
69	3	軌道	邊緣（ふち）
90	6	年々の運動	年週運行
114	13	精確	精密
255	16	ヘリクレス座	ヘルクレス座
311	3	中間物	媒體（以下同様）
〃	5	瞬力	衝動（〃 〃）
315	11	地圖	圖
324	10	教會の長老	教父
343	6	ウロンナ	ウルシナ
350	2	宗成	完成
386	7	をも	も
403	11	最も話したることが	話したることが最も
428	5	ことを	こととを
473	11	或を	我を
485	5	決活	快活
513	5	やつた，原稿	やつた原稿
522	13	キリト	キリスト
548	15	公大使	公の大使
549	1	秒間，視差	秒の視差
5 6	3	始つて，	始まつて，